

市民産業常任委員会

所管事務調査の一環として令和6年2月7日から9日まで、滋賀県湖南市の「コナン市民共同発電所」及び滋賀県近江八幡市の「観光振興計画」について、それぞれ行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 高畠 裕
委員 植村 美洋 石名 国光 高橋 光雄

湖南市では昭和40年代から児童福祉施設が移転したことに伴い、福祉事業所が相次ぎ開設し、先駆けた障がい福祉施策の取組を行ってきました。

そのような中、電気料金など年間約243億円のエネルギー費用が地域外へ流出していることから、自治体新電力を核として、地域にある自然エネルギーを活用することで、地域循環共生圏の実現とSDGsへの貢献を目指すとしています。

具体的には、7つの地域新電力を核としたプロジェクトを推進することで、地域経済循環やSDGsへの貢献、脱炭素社会の実現を図っています。以上のように、地域で自然エネルギーから電気を作り消費をし、利益をまちづくりにと全てが市内で循環させる理想の先進事例を視察したことは、ゼロカーボンシティ宣言をした本市にとっても大変参考となる取り組みでありました。

近江八幡市では、戦国時代に楽市楽座が布かれた地として、古くから商人の往来があり、住民の自立意識が大変強い地域でありました。

「近江八幡市観光振興計画」で市民は「学び体験する機会を拡大し、愛着と誇りを醸成する」「近江八幡らしさを伝える力を高める」、観光客は「近江八幡をくり返し訪れ、魅力を発見する」「より深く理解し、魅力を発信する」としており、市民と観光客との交流を通して、お互いに影響し合うコンセプトを実現するため、課題と施策を対応させる内容となっています。このように近江八幡市では、観光行政の面で計画管理をしているほか、市民が自身の持ち場で進んで町おこしをする精神が多く見られる取組が、観光客を集めていると認識しました。



教育福祉常任委員会

所管事務調査の一環として令和6年1月25日から26日まで、和歌山県橋本市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 吉見優一郎 副委員長 佐川 琴次
委員 柴原 隆夫 菅原 修一
佐川 京子 深谷 弘

「きのくに子どもの村学園」小・中学校の見学 【学園内の視察、並びに学園長の堀先生と対談】

今まで体験したことのない小・中学校の学校生活風景を見学し、全校生徒ミーティングや各種授業に参加させてもらいました。子どもたちはみんな、自分自身で自分のやりたいことを決めて行動



することで、いろいろなことに興味を持ち、積極的で責任感もとても強く感じました。最後には学園長の堀先生に質疑応答していただき、新たな教育の方向性ややり方をいろいろと考える、とてもよい機会になりました。

建設水道常任委員会

所管事務調査の一環として令和6年1月22日から24日まで、三重県伊勢市及び三重県桑名市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 鈴木 裕哉 副委員長 永山 均
委員 水野谷正則 大花 務 遠藤 公彦

三重県伊勢市

【伊勢志摩地域における自転車の活用】

伊勢志摩地域の概要、自転車活用に関する法制度、自転車を取り巻く環境、（仮称）伊勢志摩地域自転車ネットワーク計画（案）についての説明を受けました。伊勢志摩地域は三重県の中東部の比較的温暖な気候のところに位置し、伊勢市を含む8つの近隣の市と町から構成されています。この地域は、令和3年5月に国のナショナルサイクルルートの指定を受けた「太平洋自転車道」のひと区間に属しており、行政区域を越えて社会・経済・文化・観光などの面で結びつきの深い8つの市と町が連携して取り組んでいくことで、更なる自転車の利用効果が期待できるとのことでした。

また、航行しているフェリー運営会社が3社あり、そこで乗船するインバウンドの富裕層に向けて、自転車を活用したプロモーション活動も行っていました。他にも、自転車の活用による健康の保持と増進、体力向上を目的に、高齢者向けの電動アシスト自転車や親子3人乗り自転車の購入費の補助事業等、観光産業以外にも市民の自転車利用向上へとうまく実践している点は、本市の自転車活用推進計画においても大変参考になるものでありました。

三重県桑名市

【歴史的建造物の保全と活用】

桑名市では歴史的建造物に関わるものは、以前は教育委員会の中の文化課が担当していましたが、4年前に市長公室のブランド推進課に担当が変更となり、市が有する歴史的な観光資源の魅力や価値を桑名ブランドとして積極的に展開していました。かつての海上交通の要衝としての「七里の渡し」や江戸末期から明治にかけて山林王として財を成した諸戸(もろと)清六の邸宅「六華苑」など、揖斐川河口沿いに観光名所が集中しておりコンパクトな市内観光ができ、またテレビ・映画の撮影のロケ地として利用されているところは、本市におけるフィルムコミッション事業にも大いに通じるものがありました。その他、400年の歴史のある桑名石取祭りは、白河の提灯祭りと同様、担い手不足と高齢化の中での継承という課題があり、お互いに共通するものがありました。特に桑名市は、本市と友好都市ということもありますので、今後も交流を深め、情報の共有を密にし、互いの様々な施策に活かしていく必要性を感じたところでありました。

